観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年　７月　２９日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	~~広域連携ＤＭＯ~~･地域連携ＤＭＯ･~~地域ＤＭＯ~~	
観光地域づくり法人の名称	株式会社かづの観光物産公社	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	秋田県鹿角市、秋田県小坂町	
所在地	秋田県鹿角市	
設立時期	平成元年 2 月　財団法人鹿角観光ふるさと財団設立 平成 6 年 4 月　株式会社鹿角観光ふるさと館へ移行 平成 25 年 4 月　株式会社かづの観光物産公社に社名変更	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	23 人【常勤 23 人（正職員 21 人・出向等 2 人)】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 安保　朗 （出身組織名） 鹿角コミュニティ FM 株式会社	地域密着型コミュニティ放送「きりたんぽ FM」を運営する鹿角コミュニティ FM 株式会社の代表を務める傍ら㈱かづの観光物産公社の役員を兼任し、令和 7 年 6 月に現・㈱かづの観光物産公社の代表取締役に就任。鹿角国際交流会の代表も務め、国内外の幅広い知識を同社ガバナンスの強化に活かし、意思決定と業務執行の監督両面を牽引する。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー	（氏名） 木村　友晃「専従」 （出身組織名） ㈱かづの観光物産公社 統括本部長 兼 駅長	平成 13 年に入社後、教育旅行誘致活動やエージェントへのセールスなど国内外のプロモーション活動に積極的に参加しているほか、道の駅で国内外からの団体客の受入対応をしている。長い経験に基づく営業力と高い知見を活かし、収益部門と公益部門の両面を牽引している。

様式１

※必ず記入すること		
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 及川　華「専従」 （出身組織名） ㈱かづの観光物産公社 課長	トップツアー㈱（現:東武トップツアーズ㈱）に 9 年勤務し、海外国内旅行の受付･手配業務を担当。国内旅行業務取扱管理者の資格を有しており、平成 21 年に㈱かづの観光物産公社に入社後、旅行代理店業、観光案内等、旅行事業部の運営全般に従事した。送客・受入双方からの見識を活かし、現在は公社の総務経理を担当。安定した運営のため収益部門と公益部門両方の財源を適正に管理している。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	（氏名） 佐藤　未奈「専従」 （出身組織名） ㈱かづの観光物産公社 DMO 推進室主任	平成 28 年に㈱かづの観光物産公社に入社後、販売部のほか旅行代理店業・観光案内等、旅行事業部の運営に従事。送客・受入双方からの見識を活かし、現在は DMO 推進室にて DX 事業、ヘリテージ・ツーリズム事業、鹿角観光ファン事業を担当している。観光情報サイトや SNS でのプロモーションも担う。
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 佐藤　満美子「専従」 （出身組織名） ㈱かづの観光物産公社 営業部課長	国内大手旅行会社に 7 年勤務し、添乗業務や宿泊の予約業務を担当。国内旅行業務取扱管理者の資格を有しており、平成 21 年に㈱かづの観光物産公社に入社後、観光素材の掘り起こしにより、着地型旅行商品の造成・販売に携わり、市委託事業である「でんぱく※」の責任者として活躍。現在も着地型旅行商品の造成のほか、国内外からの団体客の受入管理・対応を行っている。 ※「でんぱく」とは、地域活性化手法である「オンパク手法」を取り入れた本市ならではの着地型観光プログラムで、「伝説の里かづの体感泊覧会でんぱく」の略。地域資源の発掘・磨き上げと情報発信、プログラムの提供を行う。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	秋田県鹿角市 ・産業活力課(DMO 事業の事業評価、他事業との連携及び支援) ・農業振興課(農産物や加工商品の開発、かづのマルシェ、モノヒト交換交流事業) ・生涯学習課(文化財を活用した学習資源の創出) 秋田県小坂町 ・観光産業課観光商工班（DMO 事業の事業評価、他事業との連携及び支援、文化財を活用した観光産業の振興） ・観光産業課農林班（ワインをはじめとしたグリーンツーリズムの推進、農産物、加工品の開発） ・小坂町教育委員会事務局（文化財を活用した学習機会の創出）	

様式１

<table>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td>・株式会社かづの物産振興プラザ（お土産品の開発・販売）
・かづの商工会（地域産業の活性化、国内マーケティング）
※会員に、花輪スキー場を管理運営している東京美装興業㈱鹿角営業所がおり本市観光関係の会議にも参加しているほか、各種 FAM ツアー、農村体験受入事業の際も積極的に協力している。
・株式会社秋田銀行（調整・資金調達等）
・株式会社北都銀行（調整・資金調達等）
・発祥の地鹿角きりたんぽ協議会（地域素材の商品造成、特産品開発）
・まちの案内人協議会（地域素材の磨き上げ・着地型旅行商品提供・ガイド育成）

・小坂まちづくり株式会社(町指定管理施設の運営・ワイン事業の運営)
・株式会社 soopoint(町指定管理施設の運営)
・鹿印合同会社(町指定管理施設の運営)
・康楽館友の会（康楽館をはじめとした観光情報の発信、歌舞伎公演の補助）
・小坂町案内人協議会（小坂町観光案内）
・かつらーめん BOO 会（地域食材の発信）
・小坂鉄道保存会（近代化産業遺産の活用、観光事業への参画）
・小坂町国際交流協会（海外研修生の受入、交流）</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td>【かづの観光物産公社連絡調整役員会議】
【観光産業推進ミーティング】

＜目的＞
ＤＭＯに関わる関係者による事業の進捗状況確認、事業評価、分析、情報共有により、合意形成を図る。
＜概要＞
ＤＭＯ法人であるかづの観光物産公社が主体となり、ＤＭＯに関わる関係者を招集し定期的な会議を開催する。民間事業者の経営視点に基づき、自由度の高い組織運営を確保しながら受け入れ態勢の強化を図る。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td>鹿角エリアの住民及びエリア外からの観光客に対しては、道の駅かづのにおいて春と秋の物産展や、きりたんぽや地場産食材を活用した食に関するイベント・フェア、花輪ばやし実演イベント月 1 回開催、SDGs に通じる冬の地域活性化イベントを実施。2025 年 1 月に開催した冬の地域活性化イベントでは、市民センター主催の雪上バレーボール大会とコラボ開催。新たなスノーアクティビティも実施した。
また、長年開催されている小坂町アカシアまつりにおいて、小坂町の特産品を活用した食が提供されるほか、十和田湖和井内地区に 2024 年 10 月に創設した「道の駅十和田湖」ではオープニングイベントを実施した。
鹿角市民に対しては、2025 年 4 月より隔月で市広報にて「かづの DMO 通信」記事を掲載。DMO の組織や観光地域としての現状等を分かりやすく紹介している。※小坂町広報は「秋田犬ツーリズム」の記事が掲載されているため、次年度以降に町と両 DMO と調整をする。
その他にも観光関係事業者に対しては、DMO 主催の DX アカデミー開催その他観光キャンペーンや各種体験プログラムの実施（文化庁縄文食体験）や、観光産業推進ミーティングの開催により観光意識の啓発と戦略の共有を行い、連携を図っている。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table><tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr><tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>【H30】
・国内旅行 AGT 営業活動（関東・関西）
・環境省 十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト受託(モデルルート作成)</td></tr></table></td></tr>
</table>

			・鹿角市・八幡平市連携「タイ市場プロモーション事業」現地旅行 AGT・インフルエンサー招聘事業への連携及び商談会 ・タイ現地 JNTO 商談会 参加 ・盛岡八幡平広域観光推進協議会 商談会(東京都)参加 ・秋田魁新報主催「ふるさと彩発見さきがけ in 鹿角」パネルディスカッション参加 【R1】 ・秋田県観光連盟 教育旅行キャラバン（北海道） ・「タイ市場プロモーション事業」現地旅行ＡＧＴ・インフルエンサー招聘　（鹿角市・八幡平市・八幡平ＤＭＯ連携） ・JATA 意見交換会(市内会場)の開催連携 ・タイ現地旅行会社への営業活動 ・盛岡八幡平広域観光推進協議会 商談会(東京都)参加 【R2】 ・おうちでかづの　オンラインツアー開催 5 回 ・長崎国際大学連携 SNS プレゼントキャンペーン 【R3】 ・WEB 観光プラットフォーム「旅するかづの」開設 ・教育旅行キャラバン（国内エージェント） ・東北台湾エージェントとのオンラインツアー ・秋田県 DMO 連携　縄文菓子開発及び PR 動画作成 ・北海道・北東北縄文遺跡群パネル展開催 ・SDGs スノーキャンドル＆焚き火イベント（自主財源） 【R4】 ・DX セミナー開催及びバックオフィス DX 推進 ・盛岡八幡平広域観光推進協議会 商談会(東京都)参加 ・文化庁事業縄文食モニターツアー実施 ・文化庁事業縄文まつりモニターツアー実施 ・SDGs スノーキャンドル＆焚き火イベント＆謎解き SDGs ・全国道の駅シンポジウム観光推進拠点（ＤＭＯ×道の駅）パネリスト登壇 【R5】 ・十和田八幡平ツーリズム会員制度をＤＭＯ内に組織 （旧:十和田八幡平観光物産協会　※会員に温泉事業者、農業・畜産関係者、交通事業社、宿泊事業者などが参画） ・DX セミナー開催及びバックオフィス DX 推進 ・盛岡八幡平広域観光推進協議会 商談会(東京都)参加 ・教育旅行キャラバン（国内エージェント） ・産学連携事業（武蔵野大学、ノースアジア大学） ・SDGs スノーキャンドル＆焚き火イベント＆謎解き SDGs ・愛媛県伊予市、宮崎県とのモノヒト交流事業 （産品交流、モニターツアー実施） ・観光情報サイト「旅するかづの」リニューアル ・地域ファンクラブ「鹿角観光ファン」WEB ページ公開、SNS 広告配信	

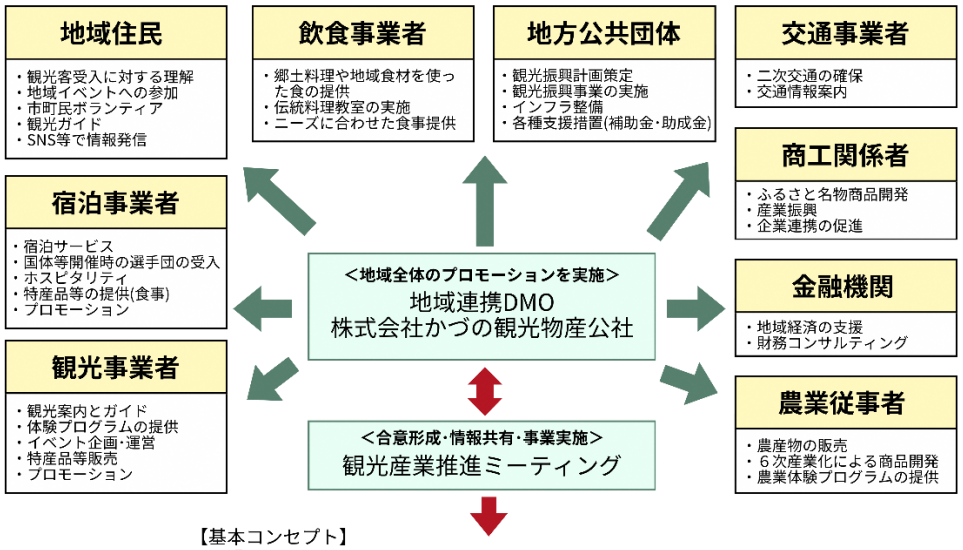
		・海外向けSNS発信（インバウンドメディアプロモーション事業） 【R6】 ・教育旅行誘致キャラバン（国内エージェント） ・観光情報サイト「旅するかづの」小坂町情報追加、掲載コンテンツ拡充 ・DMO公式Instagramリニューアル、発信 ・「鹿角観光ファン」SNS広告配信 ・「鹿角観光ガイド」WEBページ公開 ・JR秋田支社主催観光キャラバン参加（11月／船橋駅） ・英語・繁体字 観光LPサイト公開 ・海外向けＳＮＳ発信（インバウンドプロモーション事業） 【R7】 ・教育旅行誘致キャラバン（国内エージェント） ・各WEBサイト・SNS管理運営 ・宿泊事業者連携SNSキャンペーン	
	受入環境の整備	【H30～R1】 ・鹿角市「市民おもてなし力向上事業」受託 ・「道の駅かづの」の大規模改修 【R2】 ・英会話語学研修事業（観光事業者新入社員向け） ・アウトドアコンテンツ開発（焚き火・薪割り体験） 【R3】 ・英会話語学研修事業（観光事業者新入社員向け） ・アウトドアコンテンツ開発事業（WEB作成、商品販売） ・北東北DMO連携　台湾インバウンドレンタカー事業 ・北東北DMO連携　アドベンチャーツーリズム事業（ガイド育成事業） ・外務省　地方視察ツアー「秋田県鹿角市」 【R4】 ・北東北DMO連携　台湾インバウンドレンタカー事業 ・文化庁事業縄文食プログラム　商品造成 ・鹿角ガイド養成講座開始（森・山、歴史・食　来年度　上級編ほか） ・英会話語学研修事業（中学生英語でガイド含む） 【R5】 ・北東北DMO連携（地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業、十和田湖1000年会議、レンタカー事業） ・鹿角ガイド養成講座（継続）（滝、食（縄文食）、伝説、森・山（上級編）、救命救急講座） ・英会話語学研修事業（中学生英語でガイド含む） 【R6】	

		・鹿角ガイド養成講座（継続）（おもてなし英会話、鹿角街道） ・英会話語学研修事業（観光関連事業者向け／中学生英語でガイド含む） 【R7】 ・観光ガイド研修会（鹿角ガイド養成講座継続。観光ガイドのスキルアップを目指す） ・野外救命講習会 ・英会話語学研修事業（継続／観光関連事業者向け）	
	観光資源の磨き上げ	【H30】 ・着地型旅行商品の造成販売（まるごとりんご三昧ツアー） 【R1】 ・着地型旅行商品の造成（桃ツアー、タクシー活用プラン） ・世界遺産である花輪ばやし・大日堂舞楽を主軸とした着地型旅行商品「かづのプレミアムツアー」の造成販売 【R2】 ・おうちでかづのオンラインツアー 5 回 ・かづのに泊まってエールキャンペーン(1 万人限定) ・観光事業者窓口相談事業 ・スノーキャンドル＆花火　イベント 【R3】 ・「かづのプレミアムツアー」の造成販売（R1 に引き続き） ・おうちでかづのオンラインツアー4 回開催 ・祭り展示館において花輪ばやし実演（月 1 回×8 ヶ月） ・DMO 連携縄文スイーツ開発及び PR 動画作成、リーフレット作成 【R4】 ・「かづのプレミアムツアー」の造成販売(8 月と 1 月) ・大館能代空港促進　大手旅行オンラインツアー協力 ・祭り展示館において花輪ばやし月 1 回実演実施 ・縄文遺跡群連携 北秋田市縄文祭（縄文食体験提供） ・国立公園八幡平魅力アップ事業支援（コンテンツ造成等） 【R5】 ・「三湖伝説八郎太郎モデルツアー」の造成販売(9 月) ・八郎まつり（潟上市）と花輪ばやしの実演コラボ（7 月） ・祭り展示館において花輪ばやし月 1 回実演実施 ・縄文遺跡群連携 On TripJAL との連携、世界自然遺産「白神山地」セミナーにおける講演 ・郷土料理シンポジウム（郷土料理提供等） ・国立公園八幡平魅力アップ事業支援（コンテンツ造成等） 【R6】 ・祭り展示館において花輪ばやし月 1 回実演実施（一部参加型／地元小学校花輪ばやしクラブとのコラボ実施） ・「八郎まつり（潟上市)」と「たざわ湖・龍神まつり（仙北市)」と花輪ばやしのコラボイベント開催（6 月） ・郷土料理イベント開催（10 月） ・花輪線利用促進着地型ツアー開催（計 6 本） ・スノーキャンドル＆花火　イベント（継続）	

		→地域の市民センターとコラボし雪上バレー大会を同時開催。R5 年度モニターツアー参加者の元全日本バレーボール選手・佐伯美香氏をゲストに招き、大会の特別解説とスノーアクティビティを実施した。 【R7】 ・祭り展示館において花輪ばやし月１回実演実施（一部参加型／10 月地元小学校花輪ばやしクラブとのコラボ実施予定） ・花輪線利用促進着地型ツアー開催（計 6 本予定） ・花輪線利用促進謎解き BOOK 販売（今秋販売開始予定）
	【定量的な評価】 ・モデルツアー　9 月実施 13 名 ・花輪線ツアー　R6 年 7 月／29 名、R6 年 9 月 8 日／25 名、9 月 29 日／25 名、R7 年 1 月／24 名、R7 年 2 月 8 日／24 名、R7 年 2 月 22 日／15 名、R7 年 7 月 12 日／23 名、R7 年 7 月 18～19 日／25 名 ・祭り展示館 花輪ばやし実演披露 2024 年度 8 回開催 合計 660 名来場　※内 1 回は無料公開 ・謎解き BOOK 通年販売 道の駅かづの編 123 冊、尾去沢鉱山編 96 冊、大湯ストーンサークル館編 27 冊、３種 25 セット（合計売上 371,600 円）※R5 年 4 月～R7 年 6 月 ・教育旅行受入実績（エリア全体）R5 年度／128 校・12,633 名 R6 年度／97 校・10,221 名	
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** (株)かづの観光物産公社が母体となり、幅広い構成メンバーの参画により、事業の取組・改善内容の的確な把握や、緊密なコミュニケーション機会を設定するなど、関係者の合意形成を図りながら、事業を推進していく。 また、地域内外からのニーズ等のデータ収集をはじめ、他地域の先進的な組織体の先行事例の調査など、多岐にわたる分析を通じて、鹿角観光のプラットフォームとして地域に還元する推進体制を構築する。年 2 回以上の観光推進ミーティングを実施し、観光関係事業者との合意形成を図る。 **【実施体制図】**	

様式１

＜地域関係団体との役割・連携イメージ＞

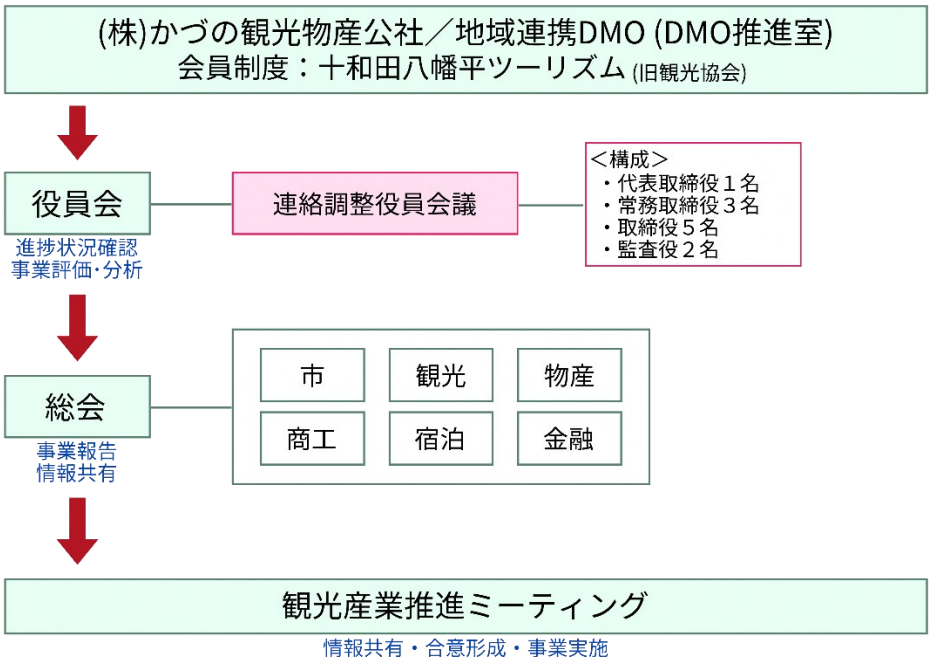


【基本コンセプト】
『ここにしかない素材で観光産業の推進を目指すまち・鹿角』
～稼げる観光を目指して～

かづのDMOを主体に関係団体との情報共有・合意形成が図られ、鹿角市と小坂町が連携し「鹿角エリア」として一体となった魅力的な観光地づくりにより、観光客の誘客活動が促進する。

※ミーティングを主催するDMO（「㈱かづの観光物産公社」）がエリア全体のプロモーションを実施。

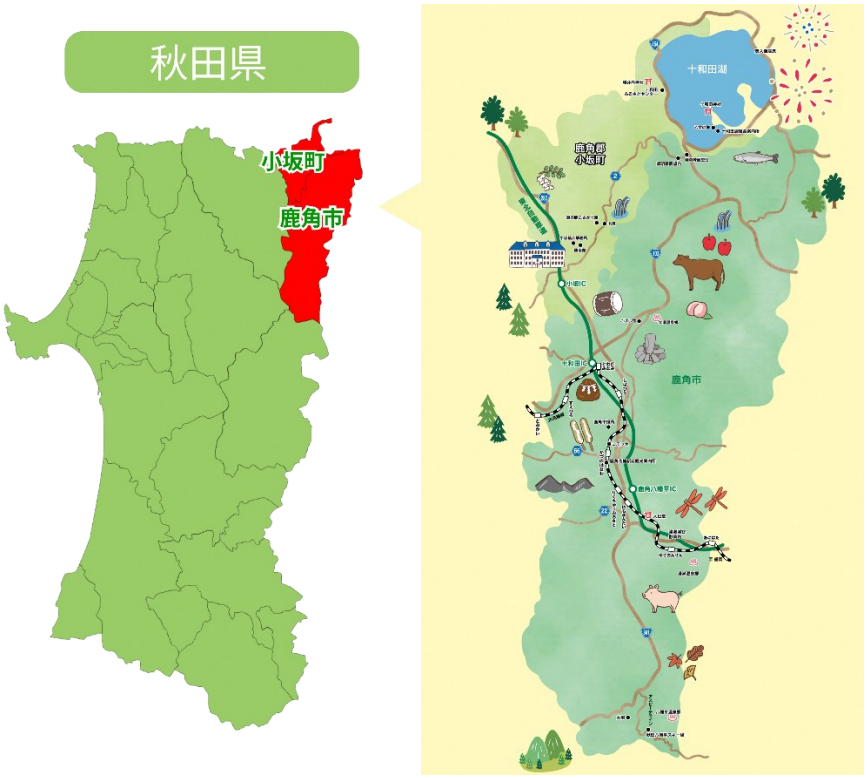
＜(株)かづの観光物産公社DMO推進体制＞



様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

鹿角市は北東北の中心に位置して、南北に十和田八幡平国立公園を有している。市内には、特色ある3つの温泉郷と3つのスキー場があるほか、世界文化遺産（大湯環状列石）と2つのユネスコ無形文化遺産に加え、国が推進する国立公園満喫プロジェクト事業対象地域の指定を受けるなど、きりたんぽ発祥の地に代表される食や歴史文化、自然など観光資源が豊富な地域である。

また、小坂町は十和田八幡平国立公園内に特別名勝及び天然記念物を有している。町中心部には明治時代に建てられた「近代化産業遺産」が立ち並ぶ「明治百年通り」が観光スポットとしてあるほか、十和田湖と町中心部の中間地点には「日本の滝百選」の「七滝」があり、その周辺では道の駅や小坂産のブドウを活用したワイン造りを行うワイナリーなど、自然と歴史文化が調和し、地場産品を活かした特産品などの観光資源が豊かな地域である。

同エリアの各団体が持つ役割とターゲットを明確にし、迅速な事業遂行、検証・分析が行うことができる地域連携ＤＭＯとして、市域を区域に設定するのが適切である。

【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

鹿角エリア全体における観光入込客数は平成28年以降、年間平均約230万人で推移していた。令和2年以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大きく減少し約120万人で推移していた。令和4年から回復傾向にあり、令和5年は感染症が5類に移行した影響でコロナ禍以前の水準に戻った。

●鹿角市

年度	観光客入込客数	宿泊者数	観光消費額(宿泊)	観光消費額(日帰り)
令和４年度	1,364,600 人	196,033 人	17,204 円	4,655 円
令和５年度	1,723,377 人	202,491 人	16,917 円	4,507 円
令和６年度	1,709,054 人	202,607 人	20,027 円	3,197 円

※データ提供：鹿角市　※消費額は一人当たりの金額

●小坂町

年度	観光客入込客数	宿泊者数
令和４年度	639,176 人	60,635 人
令和５年度	824,925 人	70,989 人
令和６年度	883,120 人	53,259 人

※データ提供：小坂町
※観光消費額は町観光統計で集計をしていないため未掲載

令和元年（平成 31 年）における鹿角市の観光客入込数は 1,765 千人である。平成 23 年の東日本大震災の影響により観光客数は一時的に減少傾向となったが、その後は年間平均約 175 万人で推移してきた。しかし、令和 2 年および 3 年は新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数は大きく減少した。
小坂町においても同様の傾向が見られ、平成 31 年の観光客入込数は 865 千人である。震災後は減少傾向が続いたものの、年間平均約 90 万人で推移していた。しかし、令和 2 年～4 年はコロナ禍の影響により観光客数が減少した。
外国人観光客については、鹿角市・小坂町ともに東日本大震災後は大幅に減少したが、近年は増加傾向にあった。特に平成 31 年には、鹿角市で延べ 14,743 人泊、小坂町で延べ 7,046 人泊と、いずれも震災前の数値を大きく上回った。これは、台湾や中国など東・東南アジア圏からの誘客が増加したことによるものである。しかし、令和 2 年および 3 年は新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人観光客数も減少した。
月別の観光客入込数を見ると、8 月が最も多く、東北夏祭りやお盆の帰省、花輪ばやしや毛馬内盆踊りといった郷土芸能が大きく影響していると考えられる。次いで 10 月の入込数が多く、鹿角エリアにおける紅葉観光のイメージが定着していることがうかがえる。
観光客の主な居住地は、秋田県内のほか岩手県や青森県など北東北地域、さらに宮城県、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、北海道など東日本各地が大半を占めている。
燃料費や物価高の影響が大きく、令和 6 年度は令和 5 年度と比較して観光客入込数がやや減少したものの、大幅な減少には至っていない。今後も地域の魅力を活かした誘客施策や、国内外からの観光需要の回復に向けた取り組みが重要である。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】
※観光資源の活用方法についても記入すること。
〇3 つの温泉郷
・八幡平、湯瀬、大湯(特色のある 3 つの温泉郷)

〇3 つのスキーエリア
・八幡平、花輪、水晶山（用途に合わせたスキー場が点在）
・花輪スキー場は、同一会場でアルペン、ジャンプ、クロスカントリー競技が開催できるため、全国規模のスキー大会が数多く開催される。
＜参考＞
近年開催実績
全日本学生スキー選手権大会：2010 年、2015 年、2019 年～2023 年
国民体育大会冬季大会：2011 年、2013 年、2021 年、2025 年

〇十和田八幡平国立公園
・昭和 31 年に十和田国立公園に八幡平国立公園が追加され、十和田八幡平国立公園となる。
平成 28 年には、国立公園満喫プロジェクト事業対象地域に選定され、国内外からのさらなる誘客が期待される。

〇森林セラピー（ロード）
・八幡平がセラピーロードとして整備されている。八幡平には森林セラピーの拠点基地である「森林セラピーステーション」があり、セラピーの紹介や情報発信などを行っているほか、各種測定器を備え、セルフで健康チェックが可能であり、気軽に利用できる施設となっている。
（R4 年度から湯瀬渓谷、中滝は遊歩道として整備。森林セラピーステーションは八幡平 1 カ所に集約。）

〇商業施設
・道の駅かづの あんとらあ
道の駅機能のほか、祭り展示館、きりたんぽ館、レストラン、売店などの機能を持つ鹿角市の観光拠点施設。大規模改修を終え、R3 年 4 月にリニューアルオープンした。
ほか、個人旅行から修学旅行や外国人観光客などの団体・ツアー客の受入が可能。近年の外国人観光客の増加を受け、免税カウンターの設置を行い外国人観光客の受入れ体制を整備している。鹿角市の観光プラットフォームとしての機能を担う。

・文化の杜交流館コモッセ
文化ホールや図書館、育児施設、公民館機能をあわせ持つ複合施設。中心市街地の拠点施設として多様な世代の交流が生まれている。

・道の駅おおゆ
大湯温泉郷内に平成 30 年 4 月 28 日オープン。地場産食材を使ったレストランや、直売所、観光案内所のほか、屋外の多目的広場では様々なイベントを開催。足湯もあり、地域住民をはじめ、観光客からも“湯の駅”として親しまれる施設である。

・小坂鉱山事務所
1905（明治 38）年に小坂鉱山の事務所として建設され、2001（平成 13）年に観光施設として現在の場所に移築・復原された産業遺産。翌年には、国の重要文化財として指定されており、館内には建築に関わる記録展示や町の歴史遺産の紹介などがあるほか、レストランや物産ショップも併設。

・明治の芝居小屋　康楽館
1910（明治 43）年完成した産業遺産。小坂鉱山の厚生施設として建設された木造芝居小屋。外観正面は白く華麗な下見板張りの洋風建築、館内は典型的な江戸末期の芝居小屋スタイルの純和風建築。全国でも珍しい和洋折衷造りの木造芝居小屋。歴史的価値が高いことから、2002（平成 14）年に国指定重要文化財に指定され、今も現役の芝居小屋として、芝居や歌舞伎等が行われている。

・小坂鉄道レールパーク
2014（平成 26）年に営業を開始。廃線となった小坂鉄道の線路や車両を利用した「観て・学んで・体験できる」レール遊びの複合施設。全国でも珍しい貴重な車両の見学やレールバイク、観光トロッコの体験乗車などができる。
また、かつて上野と東北を結んだ寝台特急「ブルートレインあけぼの」に宿泊（要予約）することもでき、大人から子どもまで楽しめる施設となっている。

・赤煉瓦倶楽部
1904（明治 37）年に建築された電気を供給する配電所で、2014（平成 26）年に移築復原された国登録有形文化財。当時の小坂鉱山内の工場施設に多く使われていた木骨煉瓦造りの建物として貴重な建築物となっている。
現在はカフェとして利用されており、小坂名産のアカシアはちみつが添えられたコーヒー、ソフトクリームなどを味わうことができる。

・滝の茶屋　孫左衛門
　道の駅こさか七滝内にあるレストラン。日本の滝百選にも選ばれた「七滝」を眺めながら食事が楽しめる。小坂町の特産を活かした料理やスイーツを味わえるスポット。

・農産物直売所（ハートランドマーケット）
　道の駅こさか七滝に隣接する農産物直売所。その日にとれた町内産の農産物や加工品、園芸品等が並びます。店内には喫茶コーナーがあり、コーヒーを飲みながら休憩することが可能。

・小坂七滝ワイナリー
　2017（平成 29）年に完成。幾度の苦難を乗り越え産地化に成功した「山ブドウ」交配品種にこだわった「日本ワイン」を醸造。

・十和田ふるさとセンター
　十和田湖西湖畔の大川岱地区にある観光施設。カヤックやサップなどの水上アクティビティなどが楽しめる拠点となっている。施設内にはコワーキングスペース、バーベキューコーナーなどもあり、ボリューム満点のハンバーガーなどが楽しめる。

・道の駅十和田湖
　2024 年 10 月に十和田湖和井内地区に新規オープンした道の駅。物販コーナーのほか、小坂町や十和田湖の歴史文化を学べるコーナーも充実。雄大で美しい十和田湖のロケーションを満喫できる。

◯歴史・文化
・世界文化遺産「大湯環状列石」（令和 3 年「北海道・北東北の縄文遺跡群」として登録）
・ユネスコ無形文化遺産「大日堂舞楽」（平成 21 年登録）
・ユネスコ無形文化遺産「花輪祭の屋台行事（花輪ばやし）」（平成 28 年「山・鉾・屋台行事」として登録）
・ユネスコ無形文化遺産「毛馬内の盆踊」（令和 4 年「風流踊」として登録）
・近代化産業遺産（史跡尾去沢鉱山）

・小坂鉱山事務所　（国指定重要文化財）（近代化産業遺産）
・明治の芝居小屋　康楽館（国指定重要文化財）（近代化産業遺産）
・旧小坂駅舎（国登録有形文化財）（秋田県指定有形文化財）
・天使館（旧聖園マリア園）（国登録有形文化財）
・赤煉瓦倶楽部（国登録有形文化財）
・旧小坂病院記念棟（国登録有形文化財）（近代化産業遺産）
・旧工藤家住宅（秋田県指定有形文化財）
・十和田ホテル（国登録有形文化財）

◯食
きりたんぽ（発祥の地）、かづの北限の桃、鹿角りんご、かづの牛、淡雪こまち、鹿角ホルモン、
ワイン、桃豚、アカシアはちみつ、十和田湖ひめます、枝豆、じゃがいも、かつらーめん
※鹿角ホルモンは文化庁 100 年フード「未来の 100 年フード部門」に認定（令和６年認定）

◯スポーツ、イベント
「スキーと駅伝のまち」として全国規模の大会を多数開催。
浅利純子杯争奪鹿角駅伝（7 月）、十和田八幡平駅伝競争全国大会（8/7）、全日本ローラースキー選手権大会（8 月）、全国ジュニアサマーノルディックスキー大会 IN 鹿角（10 月）、その他、全日本学生スキー選手権大会（インカレ）や国体をはじめ全国規模の冬季スキー大会を定期的に開催。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

・鹿角市では3つの温泉郷のほか、鹿角花輪駅周辺にビジネスホテル等が点在している。
八幡平温泉郷：施設数　10軒　収容定員数　　691名
湯瀬温泉郷　：施設数　 3軒　収容定員数　1,028名
大湯温泉郷　：施設数　 8軒　収容定員数　　703名
花輪中心部　：施設数　 4軒　収容定員数　　166名
合計　25軒　収容定員数　2,586名(R7.6月末時点)

また、小坂町は町内のほか十和田湖西湖畔にホテル、民宿等が点在している。
・十和田湖 大川岱･鉛山･銀山地区：施設数 5軒 収容定員数　495名
・十和田湖 休平地区：施設数 5軒 収容定員数　614名
・小坂町中心部：施設数 4軒 収容定員数　134名
合計 14軒 収容定員1,243名　(R7.3月末時点)

【利便性：区域までの交通、域内交通】
◎鹿角まで
関東圏より
・鉄道　：東北新幹線利用(盛岡駅下車)－JR花輪線利用(鹿角花輪駅下車)　約4時間
・車　　：東北自動車道(浦和IC－仙台宮城IC－鹿角八幡平IC)　約6時間30分
・航空機：東京(羽田)－大館能代空港－鹿角(車移動)　約2時間10分
東京(羽田)－青森空港－鹿角(車移動)　　約2時間20分
※高速バス：盛岡駅－鹿角花輪駅　約1時間20分
仙台駅－鹿角花輪駅　約3時間45分　※仙台便は現在運休中
※事前予約型観光路線バス「八郎太郎号＋ドラゴン号」：十和田湖営業所－八幡平山頂　約2時間30分
※2025年9月～事前予約型周遊乗合タクシー運行予定（区間：十和田湖～鹿角花輪駅）

◎小坂町まで
関東圏より
・鉄道　：東北新幹線利用(盛岡駅下車)－JR花輪線利用(十和田南駅下車)－小坂（車移動）
　　約4時間30分
・車　　：東北自動車道(浦和IC－仙台宮城IC－小坂IC)　約7時間30分
・航空機：東京(羽田)－大館能代空港－小坂(車移動)　約2時間
※高速バス：盛岡駅－小坂インター前　約1時間30分　青森駅－小坂インター前　約1時間10分
※事前予約制乗合タクシー「とくとく十和田湖号」
　：十和田プリンスホテル・十和田湖レークビューホテル　－　康楽館前　約1時間

【外国人観光客への対応】
行政と民間事業者とが連携した東・東南アジア圏（中国・台湾・タイ等）での誘客活動をはじめ、多言語パンフレット作成や公共施設等へのサイン看板整備を実施。また、道の駅かづのをはじめ、エリア内宿泊施設や鹿角花輪駅前案内所、中滝ふるさと学舎などへWi-Fi環境を整備したほか、道の駅かづの内に免税カウンターの開設により、外国人観光客の買い物環境の利便性が向上し、受入体制の強化が図られた。
また、国が推進する国立公園満喫プロジェクトの対象地域として「十和田八幡平国立公園」が選定されたことを機に、今後、アクセスルートの充実のほか国立公園内での観光物産展や自然体験イベントなどの開催により、より一層外国人観光客にとって魅力ある観光地づくりを進める。
小坂町は、鹿角市と同様、行政と民間事業者が連携した東・東南アジア圏（中国・台湾・タイ等）での誘客活動をはじめ、多言語パンフレットを作成している。また、町内各観光施設にWi-Fi環境を整備して外国人観光客の受入体制を強化している。ほか、県内外を問わず構成している各広域観光連携においても各種インバウンド向け事業を展開しており、継続した誘客につなげている

様式１

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	観光客の消費動向把握、観光商品の造成、魅力度向上	県観光統計（小坂町分） 市観光統計（鹿角市分）
延べ宿泊者数	観光尺の消費動向把握、観光戦略の効果検証	市観光統計 町観光統計
来訪者満足度	滞在実態の把握、観光動態の推移把握	県観光統計（小坂町分） 市観光統計（鹿角市分）
リピーター率	来訪者の満足度の把握	県観光統計（小坂町分） 市観光統計（鹿角市分）
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため	Google アナリティクス
住民満足度	観光客の消費動向把握、観光商品の造成、魅力度向上	県観光統計（小坂町分） 市民アンケート（鹿角市分）※R7 年度より満足度を調査する項目を追加

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

鹿角市は観光に必要な「気候」「自然」「文化・歴史」「食」の４つのカテゴリーの全てを持ち合わせており、それぞれが世界水準の魅力を兼ね備えているものの、これらをまだまだ十分に生かしきれていない。これまで、これらの４つのカテゴリーを明確化したパンフレットの作成や PR を通じて、観光コンテンツの魅力発信を進めてきたところであり、R1 からは特に「歴史・文化」のカテゴリーに着目し、「花輪ばやし」「大日堂舞楽」「大湯環状列石」「毛馬内盆踊り」といった本市の世界級遺産を軸とした、ヘリテージ・ツーリズムの確立を目指し、着地型ツアーの造成を行いながら、通過型観光から着地型観光を目指しているところである。

また、小坂町は十和田八幡平国立公園といった自然に加えて、これまで築き上げてきた歴史文化といった豊富な観光資源を活用してきた。これに地域特性を生かした多様な産業と連携することで、体験を主眼に置いたプランを生み出すなど、滞留型の観光を目指す。

鹿角市と小坂町を合わせて、世界水準の観光地形成を目指すためには、市内の観光関連事業者・団体すべてのほか、商工会や交通機関、文化財や国立公園を所管する関係者など多方面の組織が参加して、総合的な観光地づくりを進めていく必要があることから、地域観光のプラットフォームである地域 DMO（道の駅かづのあんとらあを運営する㈱かづの観光物産公社が中心）から、地域連携 DMO に変更し、マネジメントエリアを拡大し、地域全体の持続可能な未来発想の経営を推進する必要がある。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・自地域で積極的に活用できる強みは何か？** ・観光に必要とされる要素が豊富 （気候、自然、歴史・文化、食） ・十和田八幡平国立公園の中央に位置しており、両地域へのアクセスが良好 ・十和田八幡平国立公園が国立公園満喫プロジェクト事業の選定 ・特色ある３つの温泉郷（八幡平、湯瀬、大湯）があり、宿泊施設が充実 ・十和田八幡平国立公園が生み出す農畜産物が豊富（米、桃、りんご、かづの牛、八幡平ポーク、ワイン、はちみつなど） ・ユネスコ無形文化遺産３件（大日堂舞楽、花輪祭の屋台行事、毛馬内盆踊り）、世界文化遺産１件（大湯環状列石）を保有している優位性 ・秋田名物きりたんぽの「発祥の地」 ・北東北の中央に位置し、東北自動車道が縦貫しており、県境を越えた広域連携が可能（既に盛岡八幡平広域観光推進協議会などの組織に加入） ・関係人口から地域の魅力を広く発信	**弱み（Weaknesses）** **・自地域で改善を必要とする弱みは何か？** ・豊富な観光素材を生かし切れない（観光に関する住民の認識不足） ・観光産業をけん引する人材が後継者を含め不足している ・国立公園に依存した観光施策から脱却できていない ・通年観光に乏しく、特に冬期間はオフシーズンになっている ・着地型旅行商品を造成・販売しているが、大きな収益につながっていない ・観光拠点間の距離が広大なため、２次交通を含めた交通アクセスが脆弱 ・活動団体間の連携が不足している ・世界遺産見学者の受け入れ対策がととのっていない（案内ガイドの不足/世界級遺産のコーディネート不足/文化財を結ぶアクセスルートの未整備）
外部環境	**機会（Opportunity）** **・自地域にとって追い風となる要素は何か？** ・インバウンド需要の拡大 ・ソーシャルディスタンスによる人口流動 ・体験型観光へのニーズ変化 ・広域観光連携の拡大 （岩手県空港利用促進協議会への参画・連携） ・政府による東北地方への誘客促進政策	**脅威（Threat）** **・自地域にとって逆風となる要素は何か？** ・急速な人口減少 高齢化 ・事業者の行政依存 ・旅行形態の多様化 （通過型観光による滞在時間の短縮） ・他地域におけるインバウンド事業の展開 （スキーやウィンターアクティビティによる冬季誘客や SNS 等を活用した情報発信など）

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
※ターゲット層については、地域だけでなく、国・地域・世代・誘客のテーマ等の顧客の属性による設定が考えられる。

台湾を中心とした東・東南アジア圏の外国人観光客

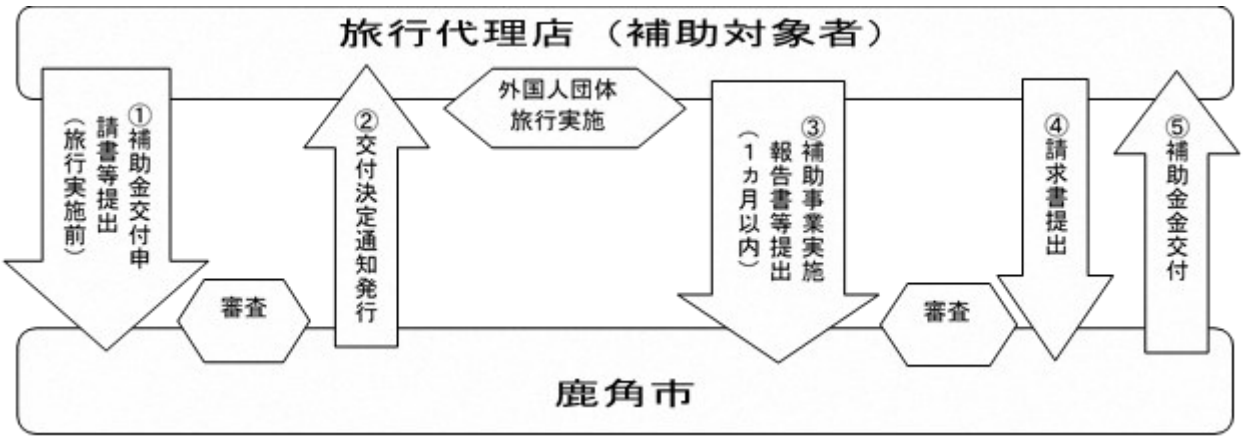
〇選定の理由
※４．戦略（１）・（２）の分析を踏まえたターゲット層の設定であることを説明すること。

外国人観光客の中でも最も宿泊者数が多く、近年急速な伸び率を示している「台湾」のほか、継続した誘客活動を行っているアジア圏からの来訪が多く、市場としても今後拡大傾向が見込まれるため。
鹿角市・小坂町の外国人宿泊観光客 80%以上を占めている台湾と道の駅を中心に利用率が延びている香港に対する市内宿泊利用を大きくしていきたい。

様式１

〇取組方針
鹿角市が実施する外国人観光客誘客支援事業（外国人観光客5名以上が参加する国内旅行で、市内1泊、観光施設1箇所以上利用した場合1人あたり2,000円を補助（R2～ 1,000円）を活用するとともに、観光施設や宿泊施設等の受入態勢の強化を図り、満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析しながら、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。

＜フロー図＞



＜交付実績／人数・金額＞
H29年度　1,690人（台湾606人、韓国1,084人）　3,380千円
H30年度　610人（台湾499人、韓国111人）　1,220千円
R1年度　2,025人（台湾1,741人、韓国91人、タイ193人）　4,050千円
R2年度　なし（コロナ禍による）
R3年度　なし（コロナ禍による）
R4年度　なし（コロナ禍による）
R5年度　101人（すべて台湾）　101千円
R6年度　0人
※R7より補助金制度廃止

インバウンドに対する補助金の効果が薄い為、今後は秋田県のトップセールス（台湾、タイ）への参加や国内にある台湾、香港、韓国のなどアジア圏を中心としたインバウンド支店を中心にセールス活動の強化の実施。特に香港圏の誘致を積極的に行いたいと考えており秋田県で実施する招聘ツアーやインフルエンサー等を活用し、また商談会が開催されれば積極的にＰＲを行っていきたい。

〇ターゲット層
・北東北在住の50～60代のシニア世代（中高年夫婦）
・北東北を中心とした各自治会や公民館等の旅行
・SDGsに関心のある企業の研修視察
・北海道（札幌市、函館市等）の中学校による修学旅行

〇選定の理由
鹿角地域への来訪者は、青森県、岩手県を含む隣県からの来訪が約6割を占めており、自家用車を使用した移動が約8割を占めている。また、ターゲットが周遊しやすい立地であり、歴史を感じることができる施設が多く、昔を懐かしむ世代に訴求しているほか、「あきたエコタウンセンター」の取り組みがSDGsやサステナビリティに沿っていることから、研修先として企業に選択されていることと合わせて長年の実績を継続していくため。また長年にわたって行っている北海道からの教育旅行の受

入れ実績を維持するとともに、地域の文化・歴史・環境などの学習素材をＰＲすることで受け入れの学校数を増やしていく。

〇取組方針
来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。また、来訪意欲を高めるための訴求方法と、来訪時の体験内容や物販などの充実により継続して訪れるよう磨き上げる。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	※他地域と明確に区別できる特徴・価値等を来訪者に伝える表現を簡潔に設定すること。 ここにしかない文化歴史　食　自然　四季と素晴らしい観光資源を掛け合わせた次世代に繋がる観光産業を推進する ～稼げる観光を目指して～
②コンセプトの考え方	※地域が目指すべき姿を明確にし、そのために地域ならではの産業、伝統、食、住、風習等やそこから導き出される区域の特徴（強み、価値）を、①コンセプトにどのように反映させているかについて他地域との差別化も踏まえて記入すること。 ※（１）～（３）のデータ分析の内容を踏まえて作成したコンセプトであることを説明すること。 各観光関係事業者の役割分担を明確にしながら、本ＤＭＯ組織が核となり、収益を生む観光プログラムを創出し、「稼ぐ観光」のメリットを享受しながら地域に還元することで、各事業者の自発的な活動が促され、さらなる観光客の誘客活動が促進する。 「鹿角ヘリテージ・ツーリズム」として、世界的文化財（「大湯環状列石」「大日堂舞楽」「花輪ばやし」「毛馬内盆踊り」など×食「きりたんぽ」「かづの北限の桃」「かづの牛」「ワイン」「桃豚」「あかしやハチミツ」など×自然「温泉郷（八幡平・湯瀬・大湯）」「国立公園十和田八幡平」などを組み合わせ、体験プログラムや着地型旅行商品の造成販売を推進）を誘客コンテンツに生かし観光地としての魅力を昇華するほか、観光関連産業と他産業の融合により新たな観光資源を育み、その価値を再認識することでおもてなしの機運を高める。また、既存の近代化産業遺産群の活用や和井内エリアの道の駅施設を核としたエリア一帯でのイベント企画などを実施し、域外へ伝えていくことで国内外観光客リピーター獲得とインバウンド拡大を図る。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	※戦略の共有方法について記入すること （例）部会、ワーキンググループ、ＨＰ、事業報告書の説明会

様式１

※頻度が分かるよう記入すること。	既存の商工会等の枠を超えた総合戦略や統一したビジョンを設定・協議する「観光産業推進ミーティング」を開催し、具体的な観光戦略の立案と事業を推進する。 また、ＤＭＯを中心に、地域の関連事業者を集めてコミュニケーションの場を設けるとともに、関連事業者に対してのコンサルティング等を実施。（令和 2 年度 5 回開催、令和 3 年度 2 回開催、令和 4 年度 3 回開催、令和 5 年度 2 回開催、R6 年度 2 回開催、R7 年度 1 回開催（R7 年 6 月時点）
	（例）ＤＭＯを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニーションの場を○月に１回程度設けるとともに、関連事業者に対してのコンサルティング等を実施。 ＤＭＯ内に、十和田八幡平ツーリズム会員（旧:十和田八幡平観光協会）制度を設け、持続可能な観光地域づくりの実現を目指し、鹿角市と小坂町が一体で、公益事業のサポートを行う。また、地域連携により、情報共有（コミュニケーションツール等活用）により、時代に合わせた事業を展開する。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	（例）飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに係る品質保証制度を実施。 宿泊施設や観光関係事業者をはじめとする地域が提供する観光サービス業に係るマーケティング調査を実施。市場動向データを分析し、各事業所・施設等へフィードバックする。 行政や観光関係事業者ごとに管理していた情報（イベント、観光情報など）を一元化し、観光情報の発信サイトを統一することで、観光客へ提供する情報の標準化を図る。 また、R6 年度より事業者向けの英会話コミュニケーション講座を実施。外国人観光客の受入の際に現場で必要となる会話や掲示物で使用する単語などを参加者からヒアリングし、各施設に合った英会話／英語表記を指導した。※R7 年度も継続。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	（例）ワンストップ窓口の実施、ＳＮＳを利用した効果的なプロモーションの実施。 観光パンフレットや各事業者で作成するイベントチラシなどの PR コンセプトや宣伝戦略を策定し、一体的なプロモーションと情報管理（収集・発信）により、一元的な情報発信を促進し、案内窓口機能の強化や情報の信頼性の向上、統一感を創出する。 さらに、観光情報を多言語化（英語・繁体字）し、WEB サイトなどのデジタルコンテンツを活用した効果的なプロモーションを展開する。 情報発信のチャンネルを増やし未開拓ターゲットを獲得する（R6 年度に TikTok（日本語・英語・繁体字）を新規開設)。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	3,607	3,987	4,406	12,970	2025＋3%	2026＋3%
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	5,246	4,270	12,593			
		(-)	(-)	(ー)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	193	206	294	262	269	277
		(9.6)	(9.6)	(9.6)	(24.7)	(25.4)	(26.1)
	実績	196	273	255			
		(1.4)	(10)	(24)			
●来訪者満足度（%）	目標	50	50	50	72	2025＋3%	2026＋3%
		(-)	(-)	(-)	(17.5)	(17.5)	(17.5)
	実績	43.6	49.2	70			
		(-)	(-)	(17)			
●リピーター率（%）	目標	85	85	85	70	2025＋3%	2026＋3%
		(-)	(-)	(-)	(36.5)	(36.5)	(36.5)
	実績	79.2	79.4	68			
		(-)	(-)	(35.5)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※R6 より小坂町の数値を反映（R6 に地域連携 DMO に登録変更したため）
※R6 より「鹿角市観光消費額推計調査」の数値を反映

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

関係者の理解と納得が得られる水準とし、現実的かつ達成可能な KPI を設定。実績に伴い毎年修正していく。R6 に小坂町も対象エリアとする地域連携 DMO に登録変更したため、R6 年度より小坂町の数値を反映。また、これまで秋田県発表の「秋田県観光統計」の数値を活用して算出したが、R6 年度より DMO で実施している「鹿角市観光消費額推計調査」の数値を使用して算出する。

・・・

●延べ宿泊者数
市と町が実施している調査値（実数）を使用。
近年は外国人観光客が増加傾向にあるが、宿泊施設の休止・廃業などの要因もあり、横ばい状態であるものの、実績をベースに対前年度比 3%成長を目指す。
・・・

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

鹿角市・小坂町は、十和田八幡平国立公園（満喫プロジェクト重点地域）をはじめとする大自然のほか、世界文化遺産の大湯環状列石、ユネスコ無形文化遺産登録の花輪ばやしや、大日堂舞楽など世界遺産規模の観光資源を多数有しており、１年を通じた誘客を基本とした目標設定を行うこととした。

・・・

2025（Ｒ７） 年度	363,580,000（円）	**【鹿角市・小坂町からの補助金・委託料】**35,157,000 円 **【鹿角市からの指定管理収入】**14,580,000 円 **【収益事業収入】**313,843,000 円
2026（Ｒ８） 年度	372,838,290（円）	**【鹿角市・小坂町からの補助金・委託料】**35,000,000 円 **【鹿角市からの指定管理収入】**14,580,000 円 **【収益事業収入】**323,258,290 円
2027（Ｒ９） 年度	382,536,038（円）	**【鹿角市・小坂町からの補助金・委託料】**35,000,000 円 **【鹿角市からの指定管理収入】**14,580,000 円 **【収益事業収入】**332,956,038 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	264,000,000（円）	**【一般管理費】19,960,000 円** (国内外プロモーション（キャラバン等）1,840,000 円 (マーケティング(市場調査、ブランド戦略等)) 2,500,000 円 (観光イベントの開催費) 15,620,000 円 **【その他費用】244,040,000 円**
2023（Ｒ５） 年度	321,333,818（円）	**売上原価（仕入）148,744,990 円** **販売管理費 171,830,294 円** **営業外費用 758,534 円**
2024（Ｒ６） 年度	341,853,455（円）	**売上原価（仕入）176,652,638 円** **販売管理費 164,643,515 円** **営業外費用 557,302 円**
2025（Ｒ７） 年度	357,540,000（円）	**売上原価（仕入）177,040,000 円** **販売管理費 180,000,000 円** **営業外費用 500,000 円**
2026（Ｒ８） 年度	362,851,200（円）	**売上原価（仕入）182,351,200 円** **販売管理費 180,000,000 円** **営業外費用 500,000 円**
2027（Ｒ９） 年度	368,321,736（円）	**売上原価（仕入）187,821,736 円** **販売管理費 180,000,000 円** **営業外費用 500,000 円**

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成･販売等の取組･方針を記載

・観光関係事業者や民間事業所、地域住民などとの共働による着地型旅行商品造成・販売による手数料・企画プロデュース料収入を確保
・行政と一体となった観光地域づくりに向かう体制づくりに係る補助金等の財政確保
※行政側（鹿角市）と宿泊税導入について検討中

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。

旅行商品の取り扱いが可能な株式会社かづの観光物産公社（道の駅かづの）が母体となり、鹿角観光のプラットフォームが確立されました。今後はＤＭＰ等のデータを活用・分析し、正確なターゲット設定から効果的な施策を展開することにより「稼げる観光」をけん引し、地域に数多く残る歴史文化・産業遺構を観光資源とするヘリテージ・ツーリズムを軸とした「稼ぐ文化観光」を、鹿角地域全体を網羅する取り組みを行う法人として鹿角市および小坂町は、株式会社かづの観光物産公社を当該市町における地域連携ＤＭＯとして登録したいので、同社とともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

当社が 2024 年 3 月に対象エリアに小坂町を追加し地域連携 DMO に登録変更した。エリアが重複する秋田犬ツーリズムとは、2024 年 7 月初旬に第 1 回目となる連絡会を行い各取組の意見交換や情報共有を行ったほか、近隣の４DMO 連携※による「観光 DMP 活用研究会」を開催し、DMP の活用にとどまらず、地域の現状把握や意見交換の場を設けることで、積極的なコミュニケーションを図っている。
今後も継続的に連絡会を実施し連携しながら秋田県北エリア全体の観光を推進する。

※秋田犬ツーリズム、あきた白神ツーリズム、ClanPEONY 津軽、かづの DMO

【区域が重複する背景】

当社は鹿角市を対象エリアとした地域 DMO であったが、観光資源を最大限に活用し持続可能な地域発展を促進するために小坂町を含んだ「鹿角地域」としてエリアマネジメントを拡大。小坂町や町内の各事業者とは教育旅行誘致活動等のプロモーション事業で当社を含む鹿角市の各事業者と長年ともに活動してきた歴史があり、地域連携 DMO となることでさらに連携を強化し地域共同体の形成を促進していくことを目的とした。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

当社（かづの観光物産公社）は主に国内市場向けのセールス活動に尽力し、インバウンドを含め団体旅行者の誘致・受入を積極的に行っている。一方、秋田犬ツーリズムは個人客誘致のほか海外市場向けのエリアプロモーションに尽力しており、商品開発や特産品の輸出など地域外への発信を積極的に行っている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】
役割分担しつつ両 DMO が連携を強化し効果的なプロモーションを行い、県北エリアを個人客と団体客ともに各地域を周遊する仕組みをつくることで相互的に観光客が増える相乗効果を期待する。

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	木村　友晃
担当部署名（役職）	統括本部長　兼　道の駅かづの駅長
郵便番号	018-5201
所在地	秋田県鹿角市花輪字新田町 11 番地 4
電話番号（直通）	0186-22-0555
ＦＡＸ番号	0186-22-0222
Ｅ－ｍａｉｌ	kazunodmo@k-dmo.co.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	秋田県鹿角市
担当者氏名	舘花　新一
担当部署名（役職）	鹿角市産業部産業活力課 観光交流班（班長）
郵便番号	018-5292
所在地	秋田県鹿角市花輪字荒田 4 番地 1
電話番号（直通）	0186-30-0248
ＦＡＸ番号	0186-30-1515
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@city.kazuno.lg.jp

都道府県･市町村名	秋田県小坂町
担当者氏名	近藤　英成
担当部署名（役職）	小坂町観光産業課　観光商工班（主任）
郵便番号	017-0292
所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂字上谷地 41 番地 1
電話番号（直通）	0186-29-3908
ＦＡＸ番号	0186-29-5481
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@town.kosaka.akita.jp

（登録）【地域連携】株式会社かづの観光物産公社

様式2

記入日： 令和7年7月29日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
秋田県鹿角市、小坂町
【設立時期】 平成29年11月28日
【設立経緯】
区域に観光協会があったが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】 安保　朗
【マーケティング責任者（CMO）】 木村　友晃
【財務責任者（CFO）】 及川　華
【職員数】 23人（常勤23人（正職員21人・出向等2人）、非常勤0人）
【主な収入】※R6年度決算
収益事業　350百万円、委託事業　34百万円
【総支出】※R6年度決算
売上原価176百万円、販売管理費164百万円、営業外費用55万円
【連携する主な事業者】
かづのDMO十和田八幡平ツーリズム（旧:十和田八幡平観光協会）
（株）かづの物産振興プラザ　かづの商工会　秋田銀行　北都銀行
きりたんぽ協議会

KPI（実績・目標）

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	3,607 (-)	3,987 (-)	4,406 (-)	12,970 (-)	2025＋3% (-)	2026＋3% (-)
	実績	5,246 (-)	4,270 (-)	12,593 (-)	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	193 (9.6)	206 (9.6)	294 (9.6)	262 (24.7)	269 (25.4)	277 (26.1)
	実績	196 (1.4)	273 (10)	255 (24)	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	50 (-)	50 (-)	50 (-)	72 (17.5)	2025+3% (17.5)	2026+3% (17.5)
	実績	43.6 (-)	49.2 (-)	70 (17)	—	—	—
リピーター率（%）	目標	85 (-)	85 (-)	85 (-)	70 (36.5)	2025+3% (36.5)	2026+3% (36.5)
	実績	79.2 (-)	79.4 (-)	68 (35.5)	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
台湾を中心とした東・東南アジア圏の外国人観光客
＊情勢により在日外国人及び国内（教育旅行含む）を
当面の間メインターゲットとする。
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
外国人観光客誘客支援事業（外国人観光客5名以上が参加する国内旅行で、市内1泊、観光施設1箇所以上利用した場合1人あたり1,000円を補助）
東北エリアDMOとの積極的な連携強化
量から質の観光にシフト／消費額増加、リピート率を重要視
【観光地域づくりのコンセプト】
地域の資源を掛け合わせ地域引力を向上させ持続可能なまちづくりに寄与する

具体的な取組

【鹿角観光総合プロデュース事業】
・着地型旅行商品 企画・造成販売
→サスティナブルモニター、モノヒト交流交換事業
・観光地づくり事業（観光×地域連携）
→地域周遊型謎解きイベント通年販売
地域と連携したスノーキャンドルイベント開催
【受入環境整備】
・観光ガイド育成事業
→新たな観光ガイドを育成、スキルアップ
野外救命講習
・外国人受入態勢強化事業
→外国人観光客を対象にアンケート調査
イベントや英会話コミュニケーション講座を実施

【観光デジタルマーケティング推進事業】
・バックオフィスDXプロジェクト
→チャットボット導入、AI等デジタルツール
を導入しDMOで実証
・WEBプロモーション強化
→鹿角公式観光サイトの運営・改修
・ビッグデータ分析
→観光DMP活用
【鹿角観光ファン事業】
・新規会員・リピート客の確保
・観光消費額増加、滞在型観光
【旅行商品造成】
・花輪線利用促進　着地型ツアー開催

花輪線利用促進ツアー

野外救命講習